

「阪神高速 未来へのチャレンジプロジェクト」 第4回助成・事業実施報告書

1. 基本事項

団 体 名	NPO 法人やんちゃまファミリーwith		
事 業 名 称	発達支援プロジェクト すべての人が生きやすいまちへ	助成額	50 万円
申 請 事 業 の 概 要	月 1 回、発達障害をもつ子どもを育てる保護者が集まるカフェを開催。担当には同じく発達障害の子どもを育てる、看護師・保育士、保健師等を配置し、ピアカウンセリングの役割を担う。他には相談、講座、講演等実施。		
申 請 事 業 の 目 的	子どもの発達が気になった時、誰もが気軽に相談し楽しく情報交換できる居場所をつくる。ピア的な場のカフェで、悩みを持つ保護者同士が交流し思いを話せる場をつくることで、保護者の孤立を防ぐ。必要な場合ペアレントトレーニングの講座をおこない子どものやる気を伸ばす関わり方やテクニックを学び子育ての困りごとへの具体的な対処法を考えていく。子どもの成長に伴い新たな課題や関わり方についてもフォローしていく。保護者が学ぶことで子どもに発達障害があっても親も子ども生きやすい社会にする。		
関連する SDGs 目標	  		

2. 助成事業の実績・成果等について

1) 事業実施内容

● ピアムズ café (全 10 回)

月 1 回、カフェスタイルのピアカウンセリングの場を、松原市・藤井寺市で交互に開催。(夏季休暇期間は除く)

実施日程

1/17、2/21、3/21、4/18、
5/16、6/20、9/19、10/17、
11/28、12/4



● ペアレントトレーニング (全 10 回)

SNS 及び、市内小中学校、幼保対象にチラシを配布。応募の中から抽選で選出した 5 名にグループで実施。

実施日程

5/15、5/29、6/12、6/26、7/17、
9/4、9/18、10/2、10/16、10/30



● 専門家講演会 (1 回)

講師に米田和子先生を招き「子育ての悩みを楽しみにかえよう！」をテーマに地域全体への啓発として実施。

実施日程 7/10



2) 数値実績 —参加者アンケートより—

- **ピアママズ café** : 延べ参加人数 30 名。後半は参加者の声を反映し勉強会形式を導入したことで参加者が増加し、12 月は最多の 8 名が参加した。
- **ペアレントトレーニング** : 出席率 94%、参加者満足度 100% (10 段階評価で全員が 10 点満点) 最終回の自己評価アンケートでは全員「自信がある」の数値が向上した。
- **専門家講演会** : 参加者 74 名。アンケート回答者の約 9 割が 8 点以上の評価。

3) 事業の成果 —保護者の行動変容—

- **保護者のスキル向上** : 当初は子どもの課題に目が向きがちだった保護者が、ペアトレを通じて「できること」を肯定的に捉えられるようになった。テクニックの効果を実感する声や、家族から見ても子どもが変化したとの声等があり、中には心身両面の回復事例も見られた。
- **支援の輪の広がり** : 講演会への参加をきっかけに、ピアママズ café や個別相談へと繋がるケースが見られた。また、ペアトレ修了生が全員ピアママズ café に参加し、未受講者にその価値を熱心に伝えるなど、参加者主体の支援の循環が生まれた。
- **将来へのつながり** : ペアトレ修了生 2 名が今後の個別相談を希望しており、中長期的な伴走支援にもつながる見通しが得られた。ペアトレは子どもの年齢層が近い少人数制での実施となったことで、参加者間に強い一体感が生まれた。講座終了後、互いに励まし合うセルフヘルプグループが自然に形成されている。
- **当事者スタッフならではの効果** : 当事者であるスタッフが自身の成功・失敗談を交え、家庭でできる視覚支援のスライド紹介や支援グッズの実演解説を行ったことで、参加者の発達支援実践への後押しとなった。
- **無料開催の意義** : ペアトレを無料開催することで、経済的負担から参加をためらう家庭にも学びの機会を届けることができた。定員超過の方々へ有料講座を案内した際に申し込みには至らなかったことから、本助成事業が地域の支援拡充に効果的であったと言える。

3. 課題分析や今後の発展性

① 現場の課題と改善

- **ペアトレ募集方法の最適化** : 親和性の高いグループ構成が効果的だったため、カテゴリー別募集 (未就学児・学童期等) の導入を検討中。
- **計画的な環境整備** : 発達支援の実例・実物提示効果を踏まえ、次年度は事業開始前から備品配備を計画的に行うため予算精度を高める。

② 今後の展望

- **支援のハブ機能の強化** : 本事業を契機とした講師との縁で、市内初「ペアレントトレーナー養成研修」を実施。(第 1 回 R7.8/30.31、第 2 回 R8.3/14.15 予定。) 今後も地域全体の支援の担い手を増やす。
- **循環型モデルの拡大** : 受講者の体験談を広報に活用し、支援からこぼれがちな知的発達に遅れの無い発達障害児家庭等へのリーチを広げ、当事者支援の循環を地域に定着させる。

4. 代表者又は担当者からのひとこと

この度はご支援をいただき心より感謝申し上げます。助成事業だからこそ実現できた企画や実践を通じ、日頃から私たちが感じていた保護者の方々の切実なニーズにしっかりと応えられたことを、大変嬉しく、誇らしく感じております。また同時に、今回の活動を通じて多くの学びもいただきました。本助成によりできたご縁を大切に、これからも地域に根ざした、暖かい支援の輪を広げてまいりたいと思います。